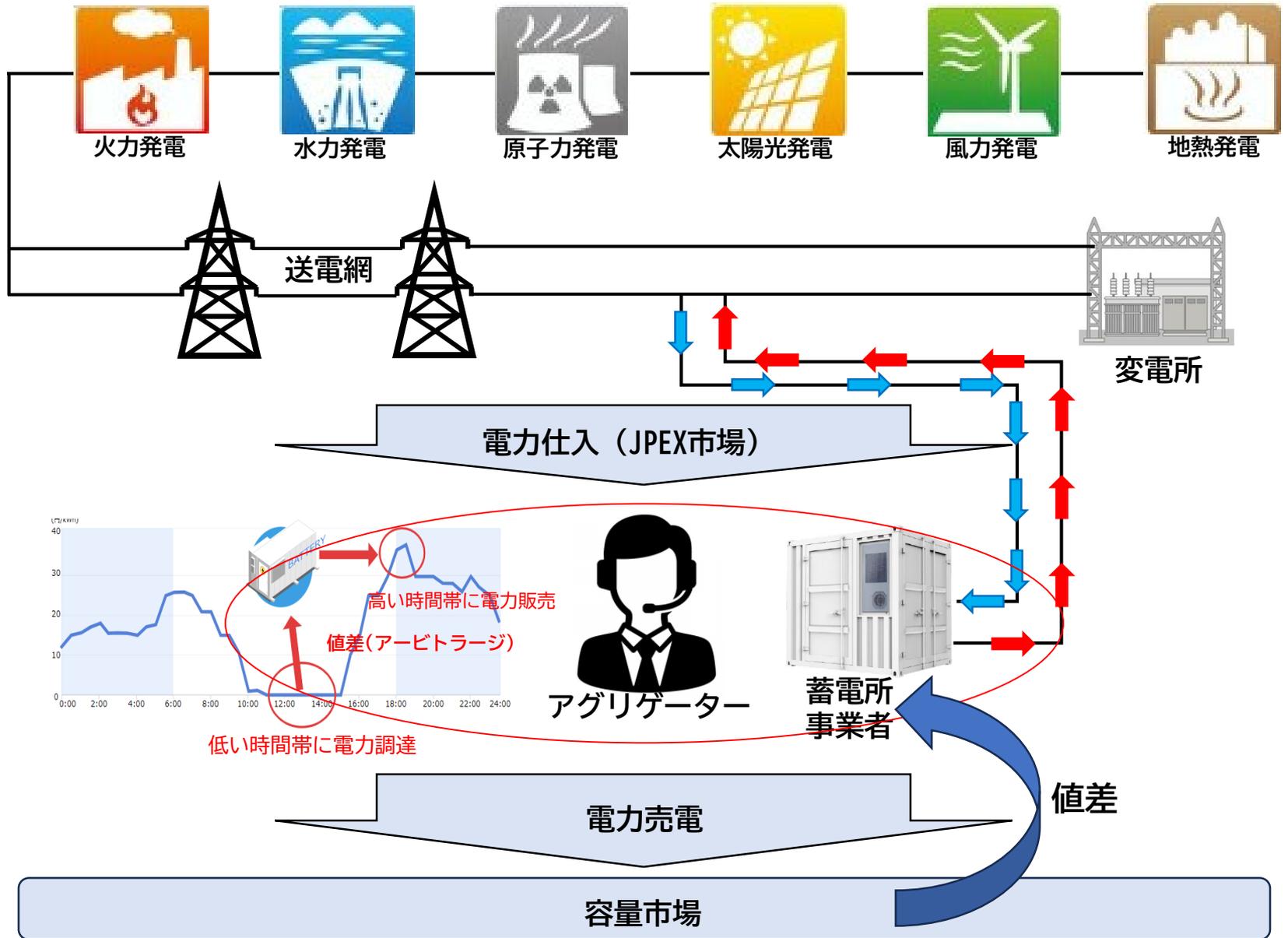


蓄電所ビジネスフローイメージ



※ 託送費 - 再エネ賦課金 - アグリゲート費用 = 収益

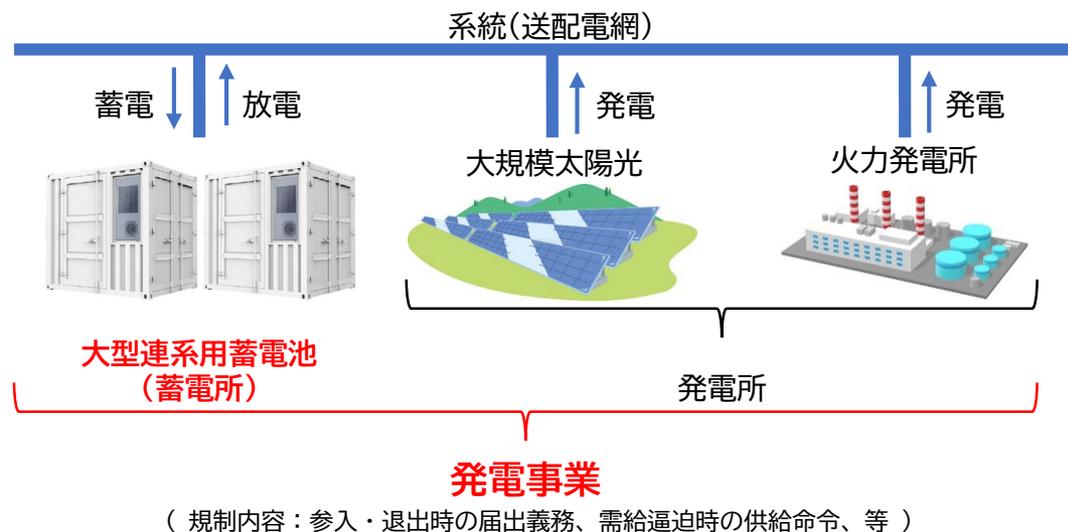
株式会社アオスフィールド

蓄電池ビジネス_系統用蓄電池

- 蓄電池に関する法制度の整備が進み、電力系統に連系された「蓄電池」が注目を浴びている中、ビジネスとしての視点から蓄電池事業展開しようとしている企業が増えてきている。

2022年の電気事業法改正により、大型蓄電池を電力系統に直接、連系する「系統用蓄電池」は電気事業法上の「発電事業」に位置付けられることになり、蓄電池事業者から電力系統への接続を求めた場合、原則として接続可能になっている。

また大型蓄電池は、太陽光と風力発電が急増する中で、調整力として期待されており、調整力を確保することはいままで送配電事業者の義務であったがこの調整力の確保についても、市場を設置し、電力会社以外の事業者を活用する制度が、太陽光ビジネスに変わる新たなビジネスモデルとして注目を浴びている。



これは主観的な解釈ではあるが、電力会社が自身の資金を使用せずに外部事業者に蓄電所を設置させて、電力会社がそれを利用する代わりに代金を支払うようなもの。これを利用して蓄電事業者は利益を得ることができる・・・ようなイメージ。

上記の通り、期待されているとは言え、系統に空きがなければ連系が出来ないので、事業展開をする際には今までの太陽光発電と同様に電力の空き容量を確保する必要はある。

ポイント①_電気代の高騰

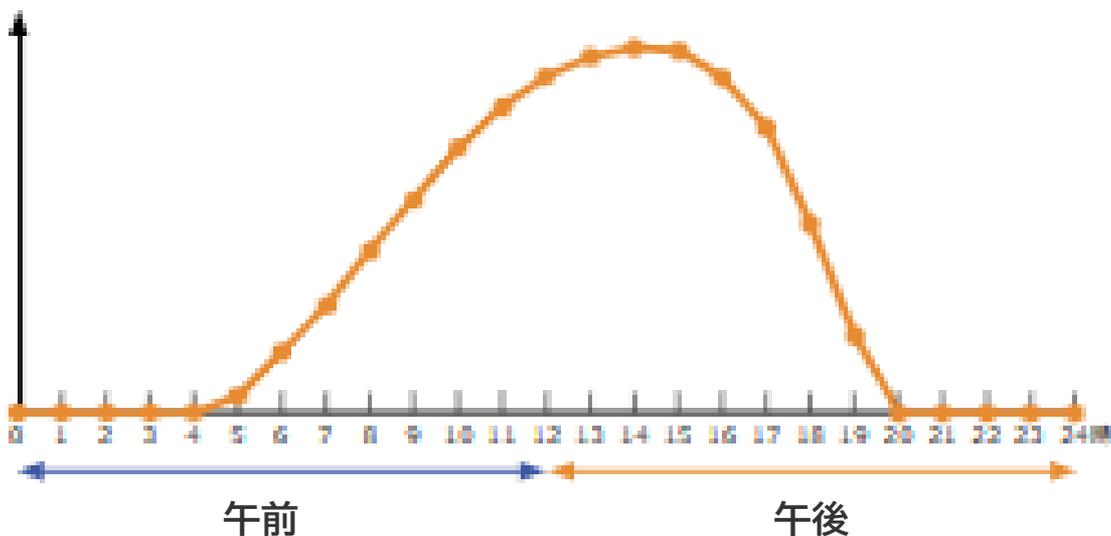
脱炭素化で電力価格が高騰し日本の電力価格は卸売り市場の取引によって決定している。2021年以降高騰を続けている。



ポイント②_太陽光発電増加

2015年以降、太陽光発電の増加が加速し太陽光発電が発電している日中は受給量が最も多くなり、発電した電気は廃棄するしかないのが現状。

太陽光発電の発電量



蓄電池ビジネス_系統連系蓄電池で収益がでる？_②

ポイント③_値差

電力価格の高騰と太陽光発電の増加による値差(アービトラージ)が発生し昼間の電力が下がり、夕方以降の電力が高くなる現象が起きている。



ポイント④_大型蓄電池

太陽光発電の発電量が多い昼間に電力を安く仕入れ、一時的に蓄電池に貯めて夕方以降に貯めておいた電力を売ることができる。

蓄電池を連系させることで、安く買って、高く売るビジネススキームが確立

